

調査結果の概要

■ 平成30年度の成果

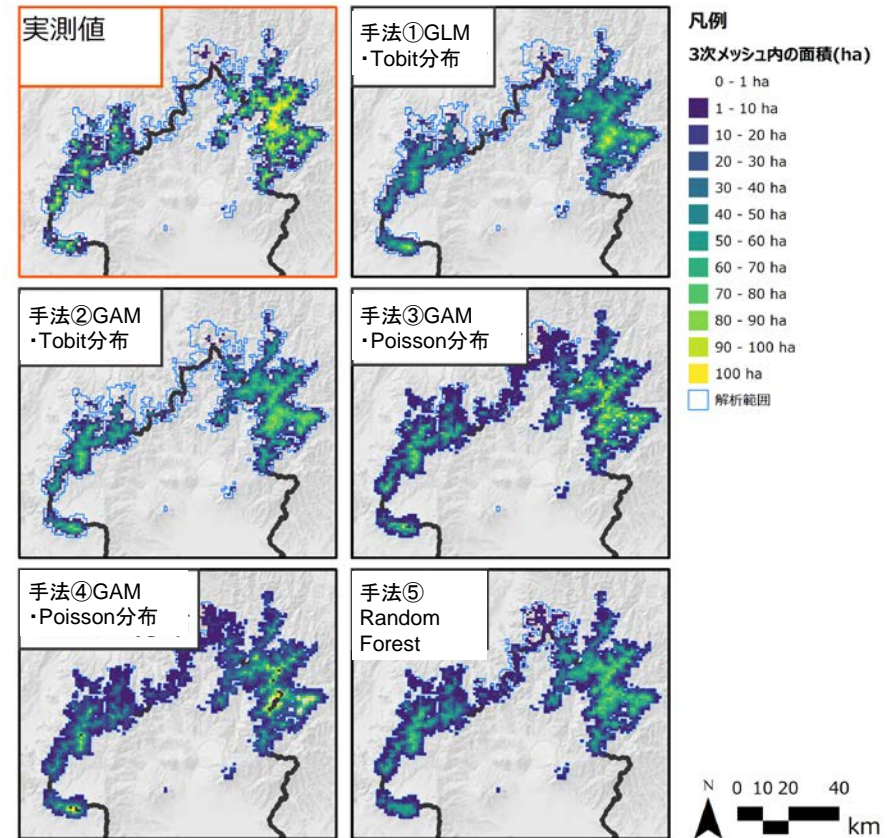
- 既存調査データから、群馬県内で確認された高山・亜高山帯植物約200種の分布情報を収集
- 高山・亜高山帯植生の分布に関わる主要な基盤情報(地形・地質・気候)のGISデータベースを作成
- 作成したデータベースをもとに、5種類の手法で高山・亜高山帯植生の分布推定モデルの試行解析を実施(右図)

■ 明らかとなった課題

- モデルによっては推定精度が十分でなく、説明変数の見直し等を行う必要がある。
- 具体的な適応策の検討にあたっては、3次メッシュ(約1km×1km)の植生分布情報に加えて、別途収集している種の分布情報を活用する必要がある

■ 平成31年度の調査計画

- 植生分布推定モデルの精査及び妥当性の検証
- 気候シナリオを用いた将来影響の予測・評価
- 種の分布情報を活用した適応策の検討



図※ 試行解析結果による、3次メッシュ内の亜高山帯針葉樹林面積のモデリング手法別の予測(現況再現)結果と実測値

※出典:以下のデータを使用してパシフィックコンサルタンツが作成
 第6-7回自然環境保全基礎調査植生調査 GISデータ 環境省生物多様性センター
 基盤地図情報(数値標高モデル(10mメッシュ)) 国土地理院
 国土数値情報 国土交通省